

Passion for Innovation.
Compassion for Patients.™



第5期中計アップデート

2023年4月27日

2022年度決算経営説明会資料より抜粋

2025年度目標を達成し成長ステージへ

2025年度計数目標

- ◆ 売上収益：1兆6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- ◆ ROE：16%以上
- ◆ 研究開発費控除前コア営業利益*率：40%
- ◆ DOE**：8%以上

3ADC最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

既存事業・製品の利益成長

- ◆ リクシアナ®利益最大化
- ◆ タリージェ®、Nilemdo®等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティの選定

ステークホルダーとの価値共創

- ◆ 患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆ 株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆ 新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

*コア営業利益：営業利益から一過性の収益・費用（固定資産売却損益等）を除外した利益 **DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

3ADC最大化の実現

◆ エンハーツ®の製品価値最大化

➢ 新規適応の取得

- HER2陽性乳がん 2L (DB-03試験)
HER2低発現乳がん 化学療法既治療 (DB-04試験)
HER2遺伝子変異 NSCLC 2L+ (DL-01/02試験)

➢ 各国/地域における製品売上の伸長

- DB-03/04試験の結果を受けた、当初計画を上回る売上拡大

➢ 適応拡大試験の進捗

- HER2陽性乳がん 1L (DB-09試験)
HER2陽性乳がん ネオアジュバント療法 (DB-11試験)
HER2低発現乳がん 化学療法未治療 (DB-06試験) 等

◆ Dato-DXd、HER3-DXdの製品価値最大化

➢ 上市に向けたピボタル試験の進捗

- Dato-DXd : NSCLC 2L+ (TL-01試験)
- HER3-DXd : EGFR変異NSCLC 3L (HL-01試験)

➢ 新規Ph3試験の開始

- Dato-DXd : NSCLC (actionable遺伝子変異なし) 1L (TL-07/08試験) 等
- HER3-DXd : EGFR変異NSCLC 2L (HL-02試験)

既存事業・製品の利益成長

◆ 既存製品の成長

➢ リクシアナ®の順調な売上拡大

- 用法及び用量の追加による製品価値向上
(出血リスクの高い高齢の非弁膜症性心房細動患者の脳卒中
及び全身性塞栓症の発症抑制 : ELDERCARE-AF試験)

➢ 各国/地域における既存製品売上の伸長

- タリージェ®、Injectafer®、Venofer®、
Nilemdo®/Nustendi® 等
- 既存製品の適応拡大、剤形追加による製品価値向上

◆ 新薬を軸とした事業構造へのトランスフォーメーション

➢ 新製品の上市

- エムガルティ®、レイボア®、エザルミア® 等

➢ 各国/地域における独占販売期間満了後の製品譲渡の進展

更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバー候補（Rising Stars）の登場
 - DS-7300（抗B7-H3 ADC）の開発の進捗
 - 多様ながん種（SCLC、前立腺がん、扁平上皮食道がん、扁平上皮NSCLC）における早期の有効性シグナルを示唆する中間解析データの獲得
 - 進展型SCLC 2L+を対象としたPh2試験の開始
 - DS-6000（抗CDH6 ADC）の開発の進捗
 - 卵巣がん、腎細胞がんにおける早期の有効性シグナルを示唆する中間解析データの獲得
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティ選定の進捗
 - 第二世代ADC DS-9606の臨床試験の開始

ステークホルダーとの価値共創

- ◆ 株主還元の強化
 - 利益成長に応じた増配
 - 2022年度の年間配当予想を1株当たり27円から30円へ増配
- ◆ パンデミックリスクへの対応
 - DS-5670（COVID-19 mRNAワクチン）の承認申請
 - 起源株ワクチンによる追加免疫投与（ブースター接種）の承認申請
- ◆ バリューチェーン全体の環境負荷の低減
 - 環境課題に対する取り組みの進捗
 - 事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにすることを目指す国際的イニシアチブ「RE100」への加盟
 - 国内自社拠点における使用電力の再生可能エネルギー化
- ◆ One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの浸透
 - 経営層・全従業員によるワークショップ等を通じた当社グループ共通の核となる3つの行動様式の理解向上・促進

2025年度KPIの達成の見込

(2023年4月現在)

	第5期中計 策定時	2023年4月現在
売上収益	1兆6,000億円	2兆円
がん領域売上収益	6,000億円以上	9,000億円以上
R&D費控除前 コア営業利益率	40%	40%
ROE	16%以上	16%以上
DOE	8%以上	8%以上

為替換算レート的前提

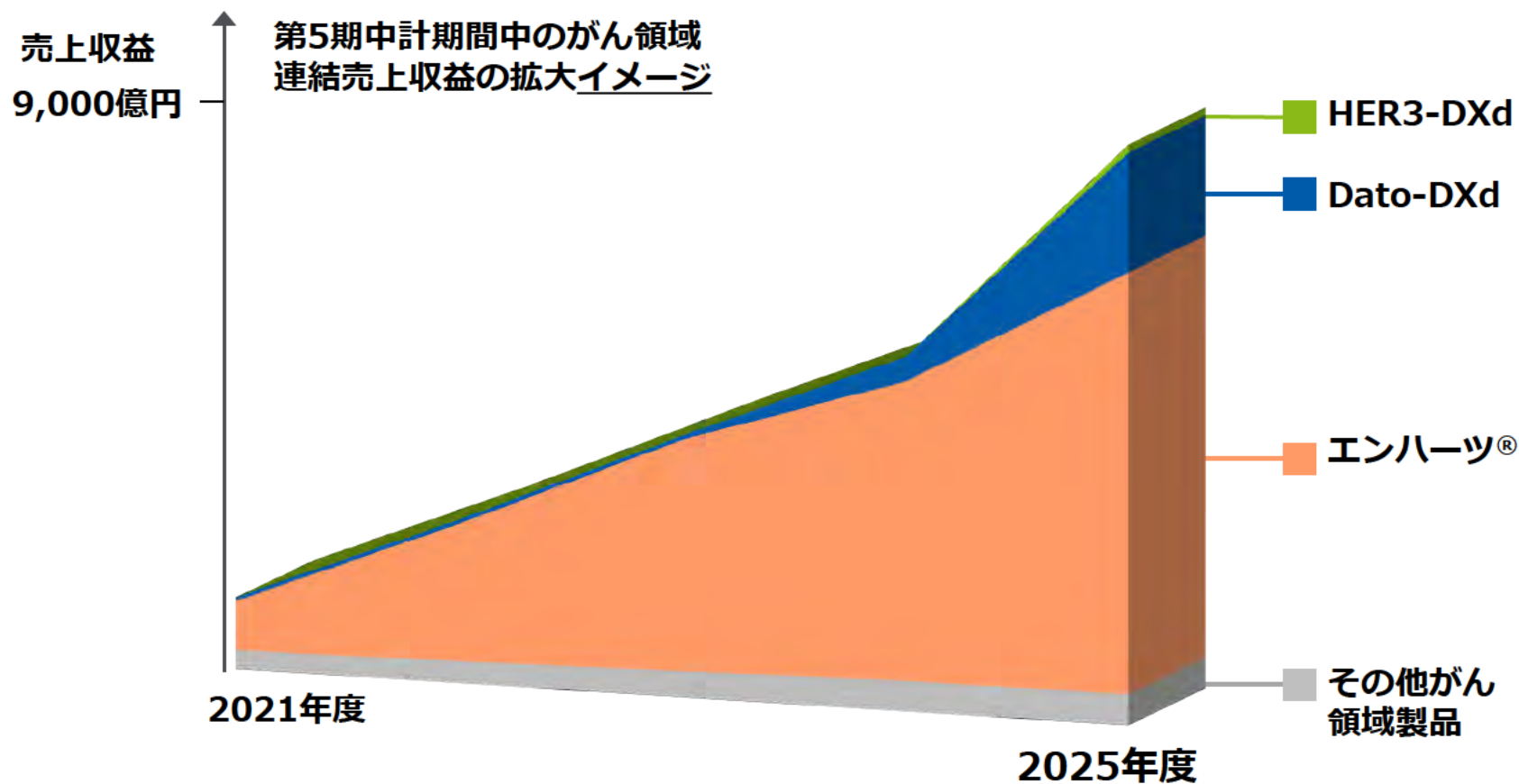
1USD=105円、1EUR=120円

1USD=130円、1EUR=140円

がん領域の売上収益見込

(2023年4月現在)

当初計画を上回るエンハーツ®、Dato-DXdの売上拡大と3ADCの開発進捗を受け、
2025年度がん領域売上収益*見込は9,000億円以上

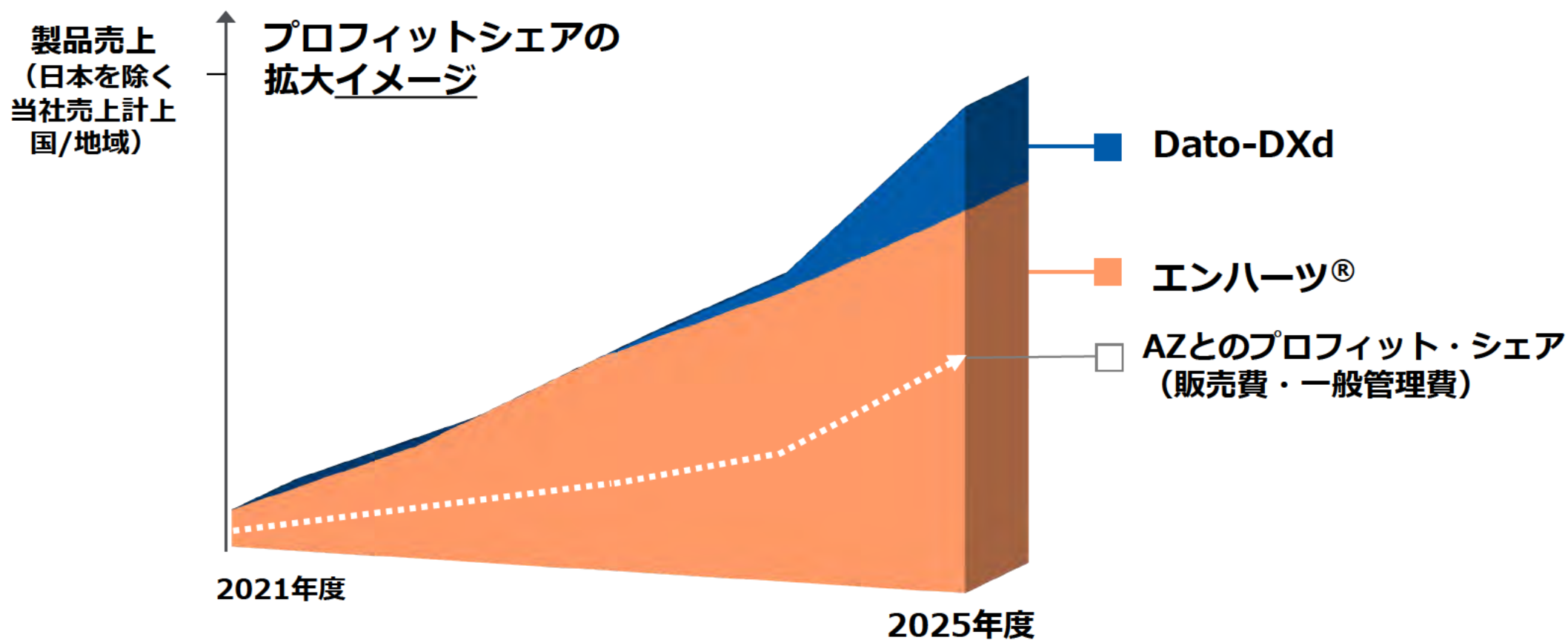


当初計画からの主な増収要因

- ◆ 上市時の適応症の拡がりによるNSCLC市場における売上拡大
 - ・ TL-01試験：actionable遺伝子変異の有無にかかわらずNSCLCの適応取得
- ◆ 適応拡大試験の加速による売上拡大及び開発マイルストンの増加
 - ・ TL-08試験等
- ◆ DB-03/04試験の結果を受けた乳がん市場における売上拡大
- ◆ 適応拡大試験の加速による売上拡大及び開発マイルストンの増加
 - ・ DB-09/11試験等
- ◆ 当初計画を上回る製品売上の拡大による販売マイルストンの増加

エンハーツ®、Dato-DXdのプロフィット・シェアの増加

エンハーツ®、Dato-DXdの製品売上拡大に伴い
戦略的提携に基づくAZとのプロフィット・シェア*が増え、販売費・一般管理費が増加



*製品売上による利益を当社とAZで折半するために、当社が売上収益を計上する国/地域（日本を除く）における売上総利益の50%を当社からAZへ支払

当初計画を上回る3ADCの開発進捗を受け、研究開発費を積極的に投入

第5期中計 (FY2021-FY2025)

FY2026 & Beyond

エンハーツ®

DESTINY-Breast05

- ・ 自社開発品をはじめI/Oや標的療法との併用による乳がんおよびNSCLCの開発
- ・ その他のがん種

Dato-DXd

TROPION-Lung07

TROPION-Breast03

- ・ 乳がんおよびNSCLCでのI/Oとの併用
- ・ その他のがん種

HER3-DXd

- ・ NSCLCでの標的療法との併用
- ・ その他のがん種

Dato-DXd

TROPION-Lung01

TROPION-Lung08

TROPION-Breast01

TROPION-Breast02

HER3-DXd

HERTHENA-Lung01

HERTHENA-Lung02

主要な試験のみ記載（詳細はAppendix参照）

* 上記のタイムラインは2023年4月時点での予測であり、今後変更する場合があります

エンハーツ®

DESTINY-Breast03

DESTINY-Breast04

DESTINY-Breast06

DESTINY-Breast09

DESTINY-Breast11

DESTINY-Gastric02

DESTINY-Gastric04

DESTINY-Lung01/02

DESTINY-Lung04

DESTINY-CRC01/02

- 第5期中計期間中に承認された適応症のための試験
- 当初、第5期中計期間中の承認を見込んでいなかった試験（新たな試験を含む）

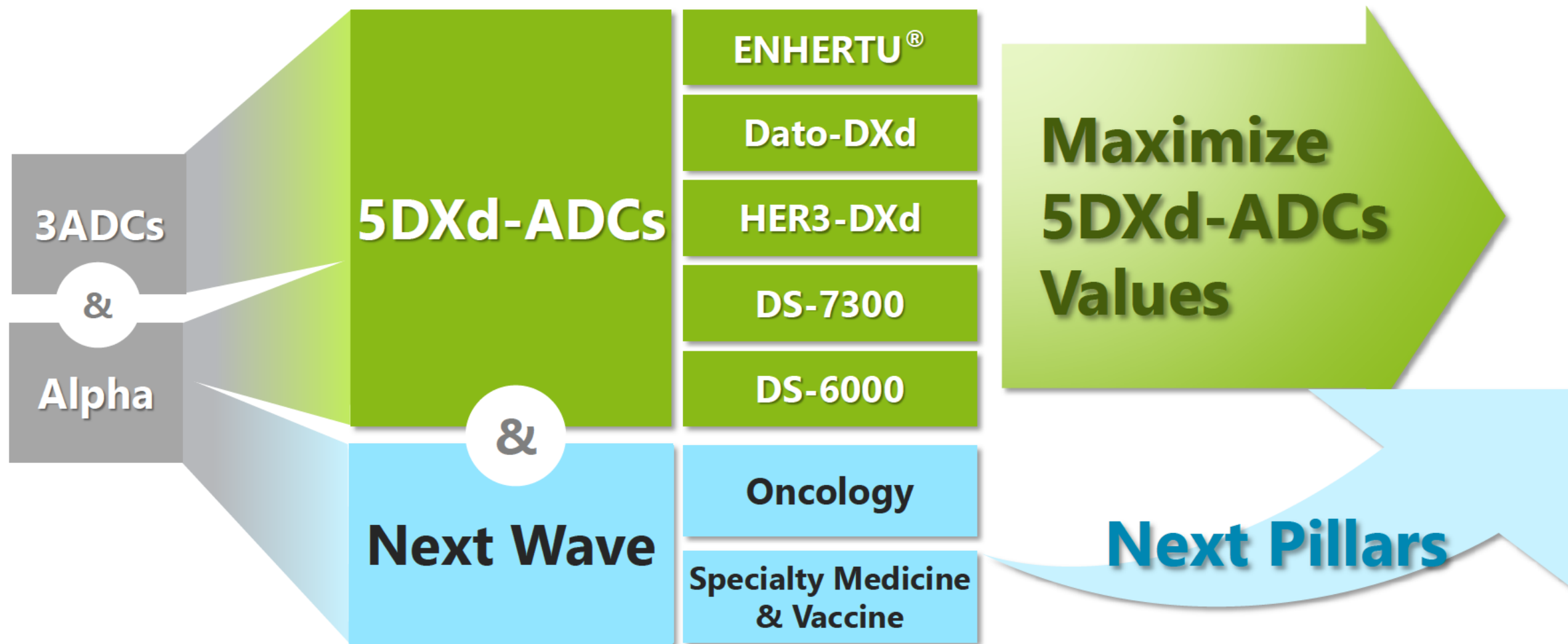
~FY2020

エンハーツ®

DESTINY-Breast01

DESTINY-Gastric01

“3 and Alpha” から “5DXd-ADCs and Next Wave”へ

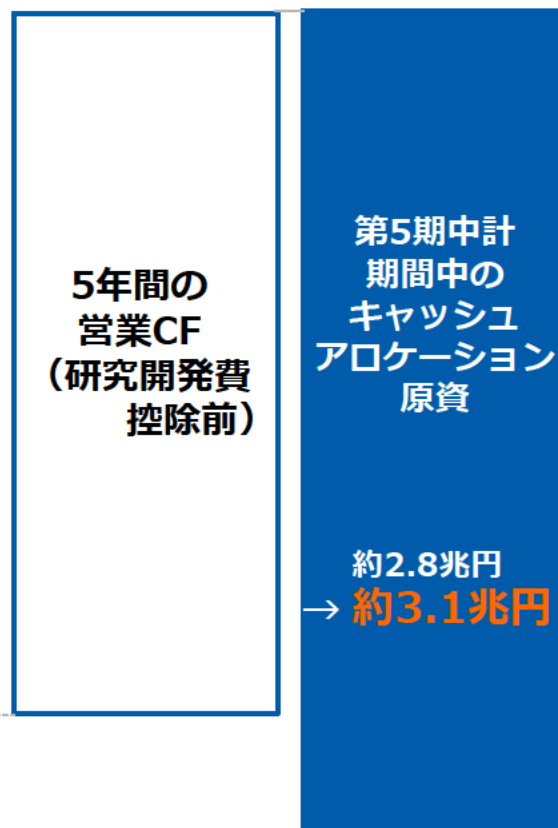


バランスのとれた成長投資と株主還元

キャッシュ・アロケーション

将来のさらなる成長に向けて研究開発費および設備投資を増額

キャッシュ・アロケーションの規模イメージ



FY2020末手元資金*
約4,000億円



DXd-ADC開発への優先投資

ADC供給体制強化を中心とした投資

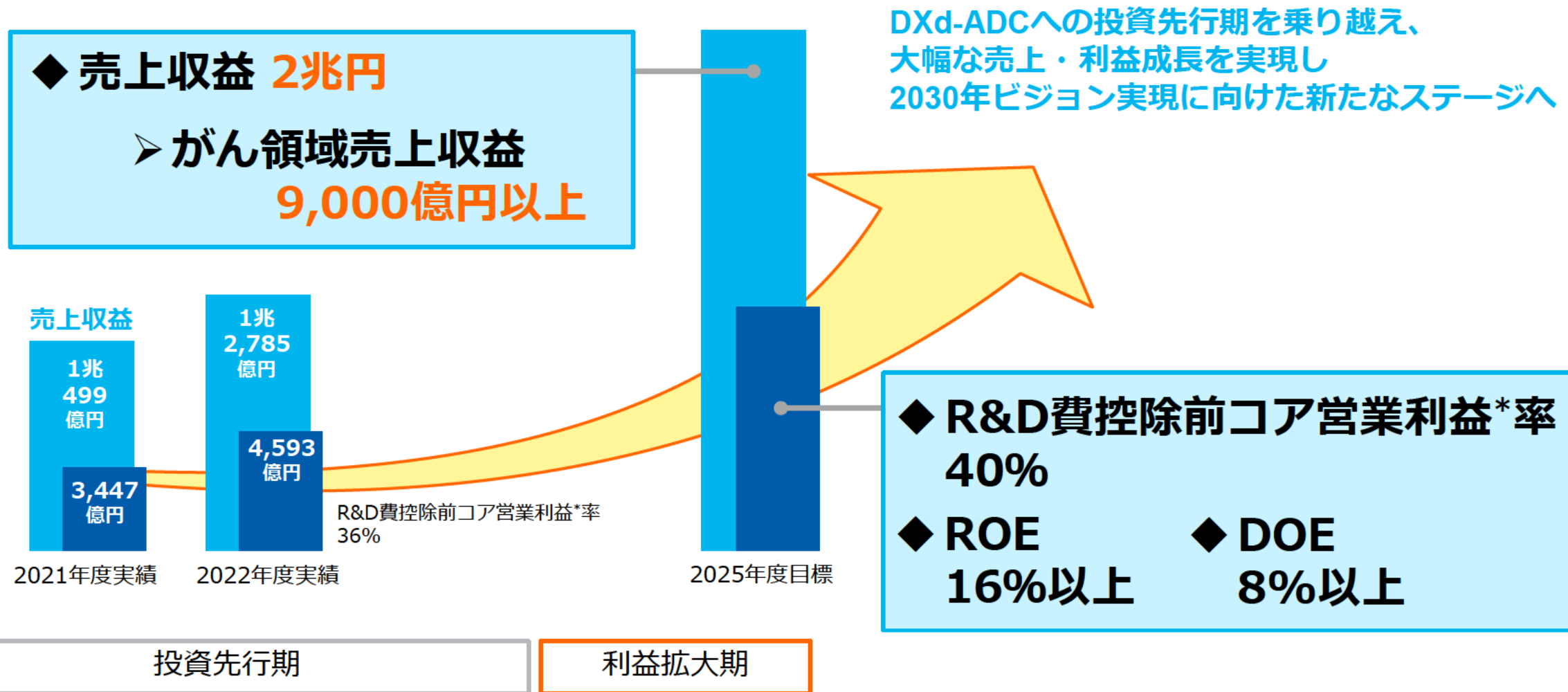
社内のパイプラインの進捗を踏まえた機動的な
①更なる成長の柱の構築に向けた投資(自社、導入)と
②自己株式取得への配分

安定配当と利益成長に応じた増配

*運転資本を除く手元資金

2025年度KPIの達成の見込

(2023年4月現在)



2025年度為替換算レート的前提：1USD=**130円**、1EUR=**140円**

*コア営業利益：営業利益から一過性の収益・費用（固定資産売却損益等）を除外した利益